

ラルテー語における音韻体系

—ミゾ語およびティディム・チン語との対照的考察—

大塚 行誠

キーワード： インド ミゾラム チン語支 ミゾ語 ティディム・チン語

要旨

ラルテー語は、シナ・チベット語族チベット・ビルマ語派のチン語支に属する言語である。本論文では、インド共和国ミゾラム州アイゾール市のボンコーン地区で行った、ラルテー語の初期調査の結果を基に、ラルテー語の音韻体系について報告する。はじめに、ラルテー語の音節構造および音素について概観した後、ラルテー語の周辺にあるチン語支の言語、ミゾ語およびティディム・チン語との対照的な考察を試みる。

1. ラルテー語の概要

ラルテー語 (Ralte, ISO 639-3: ral) は、シナ・チベット語族チベット・ビルマ語派チン語支に属する。ラルテー語を母語とする人々のコミュニティは、インド共和国ミゾラム (Mizoram) 州の北部に点在する。「ラルテー」とは、主にミゾラム一帯に住む氏族の呼称であり、ミゾラム州の州都アイゾール (Aizawl) 市内でも多数派を占める一族である。SIL International の報告によると、「ラルテー」という氏族名を持つ人々は少なくとも 34,000 人いるが、このうちラルテー語を母語とする話者の数は、2007 年の時点でわずか 900 人にすぎない。

母語話者の少ない言語だが、キリスト教宣教師によってラテン文字の表記法が考案され、現在でも広く普及している。ラルテー語による文芸作品のほか、最近では新約聖書も出版されている。本論文で研究の対象とする言語は、インド共和国ミゾラム州アイゾール市におけるラルテー語であり、調査地点はアイゾール市内のボンコーン (Bawngkawn) 地区である。インフォーマントはラルラムザウヴァ・ラルテー (Lalramzauva Ralte) 氏 (男性, 1946 年 7 月生) であり、筆者は 2015 年の 3 月 10 日から 3 月 20 日にかけて氏の自宅を訪れ、断続的に約一週間の調査を行った。ラルラムザウヴァ・ラルテー氏はアッサム (Assam) 州のシルチャル (Silchar) で生まれ、1976 年にミゾラム州のアイゾール市に移住した。ミゾ語のほか、ヒンディー語、ベンガル語、アッサム語を話すことができ、現在は民間のヒンディー語学校を主宰している。英語でのコミュニケーションも可能だったため、今回の調査ではミゾ語と英語を媒介言語としてインタビューを行った。なお、インタビューでは服部 (1957) の基礎語彙集を基に、1,140 語のラルテー語の単語を収録した。

2. ラルテー語の音韻体系

2.1 音節構造

音節構造は C1 (V1) V2 (V3) (C2) /T と表すことができる。C1 は頭子音, V1, V2 および V3 は母音, C2 は末子音, そして /T は音節全体にかぶさる声調を示す。音節中の副音 V1 と V3 の位置には [i] または [u] が現れる。

2.2 子音

頭子音 (表 1) と末子音 (表 2) の音素を以下に示す。但し、頭子音の音素 t [t], t^h [tʰ], ϵ もまれに現れるが、ミゾ語からの借用語のみに使われる為、括弧で囲んで示した。

表 1 頭子音

	両唇音	歯茎音	後部歯茎音	軟口蓋音	声門音
破裂音	p, p^h, b	t, t^h, d	(t [t], t^h [tʰ])	k, k^h, g	ʔ
鼻音	m	n		η	
摩擦音	f, v	s, z	(ϵ)		h
接近音		l			
ふるえ音		r			
破擦音		c [tɕ], c^h [tɕʰ], j [dʒ]			

表 2 末子音

	両唇音	歯茎音	軟口蓋音	声門音
破裂音	p	t	k	ʔ
鼻音	m	n	η	
接近音		$l, l^?$		
ふるえ音		$r, r^?$		

2.3 母音

ラルテー語の母音には i, e [e], a, o [ɔ], u があり、それぞれ長短の対立がある。本論文では、 $^$ を長音符として用いる。

2.4 声調

声調素には上昇調 H [ʔ] (短母音の開音節では H [ʔ] となる), 低平調 L [ʔ], 下降調 L [ʔ] (短母音の開音節では L [ʔ] となる) の3種類がある。なお、ラルテー語の周辺言語であるミゾ語には4種類、ティディム・チン語には3種類の声調がある。

声門音 $ʔ, l^?, r^?$ を末子音に持つ促音節および短母音の促音節は原則として下降調と同様、低いピッチ L で発音する。但し、低平調の音節または短母音の開音節に後続する場合、高いピッチ

チ H , すなわち上昇調と同じピッチになるという連続変調が見られる (例 (1) と (2) 参照)。

(1) $m\ddot{a}i^{L}za^{?H}$ [ma:i4za?1] 「うちわ」

(2) $pa^Lni^{?H}$ [pa:ni?1] 「2」

3. 周辺言語との対照的考察

3.1 ミゾ語とティディム・チン語

チン語支中部チン語群のミゾ語 (Mizo, ISO 639-3: lus), およびチン語支北部チン語群のティディム・チン語 (Tedim Chin, ISO 639-3: ctd) との対照から, ラルテー語の音韻的な特徴を見る。

ティディム・チン語話者のコミュニティは, インド共和国のマニプール州南部およびミゾラム州北部, ミャンマー連邦共和国のチン州北部に多い。SIL International によると, 話者人口は 344,000 人と比較的多く, チン州北部ではリングフランカとしての地位を保っている。一方, ミゾ語はミゾラム州の公用語であり, チン語支の中では話者数の最も多い言語である。SIL International によれば, 話者人口は 700,000 人近くに及び, ミゾラム州一帯では影響力の最も大きい言語だと言える。

3.2 ミゾ語とティディム・チン語の音韻体系

以下の節では, ミゾ語とティディム・チン語の音形を提示する。この節では各言語の音素表記を簡単に示す。ミゾ語に関しては Chhangte (1986, 1993), ティディム・チン語に関しては大塚 (2013) の分析を基にした。

[1] ミゾ語

(1-a) 音節構造 : C1 (C2) (V1) V2 (V3) (C3) /T

(1-b) 子音

頭子音において子音連続 tl, t^h が見られる。また, ϵ はまれに $[r]$ と発音することもある。

p, p^h, b	t, t^h, d	$l [l], l^h [l^h]$	k, k^h	$ʔ$
$m, hm [m̥m]$	$n, hn [n̥n]$		$\eta, h\eta [ŋ̥ŋ]$	
f, v	s, z	$\epsilon [e \sim r]$		h
	$l, l', hl [ll]$			
	$r, r^?$			
	$c [tɕ], c^h [tɕ^h], j [dʒ]$			

(1-c) 母音

$i, e [ɛ], a, o [ɔ], u$ があり, それぞれ長短の対立が見られる。長母音は, $\bar{i}, \bar{e}, \bar{a}, \bar{o}, \bar{u}$ と表記する。また, 二重母音と三重母音における副母音 i または u は, 上記音節構造中の V1 または V3 の部分に現れる。

(1-d) 声調

低平調 (L^L), 高平調 (H^H), 上昇調 (L^H), 下降調 (H^L) の4種類がある。

[2] ティディム・チン語

(2-a) 音節構造 : C1 (V1) V2 (V3) (C2) /T

(2-b) 子音

$c^h [tɕ^h]$ は, オノマトペなど, 限られた環境下でのみ出現する。

p, p^h, b	t, t^h, d	$k, k^h [x \sim k^h], g$?
m	n	η	
f, v	s, z		h
	l, l^p		
	$c [tɕ] (c^h [tɕ^h]), j [dʒ]$		

(2-c) 母音

$i, e [e \sim \varepsilon], a, o [o \sim \circ], u$ があり, それぞれ長短の対立が見られる。長母音は, $\bar{i}, \bar{e} [ɛ:], \bar{a}, \bar{o} [ɔ:], \bar{u}$ と表記する。また, ミゾ語と同じく, 二重母音と三重母音における副母音 i または u は, 上記音節構造中の V1 または V3 の部分に現れうる。

(2-d) 声調

中平調 (MM/M), 上昇調 ($LH/H/H^H$), 下降調 ($H^L/L/L^L$) の3種類がある。

3.3 各言語間における対応関係

各言語間における音形の対応関係を, 子音と声調の面から考察する。

全体的に見ると, ラルテー語にはミゾ語と同源の語, あるいはミゾ語からの借用語が多いが, 表3に示したとおり, ティディム・チン語と同源の語もある。

表3 ラルテー語とティディム・チン語で類似する語の例

ラルテー語	ティディム・チン語	意味
sil^{pL}	sil^{pL}	「着る」
$z\bar{i}^{HL}$	$z\bar{i}^{MM}$	「妻」
$b\bar{o}l^{HL}$	$b\bar{o}l^{MM}$	「作る」
$t\bar{a}i^{HL}$	$t\bar{a}i^{MM}$	「走る」
$l\bar{e}\eta^{HL}$	$l\bar{e}\eta^{MM}$	「飛ぶ」

また, 各言語で全く異なる語を使う場合もある (表4参照)。本論文ではこれらを考察の対象から外し, 主にラルテー語とミゾ語の間で対応関係のある音形を抽出し, その例を提示する。なお, ティディム・チン語でも対応が認められる場合には, 3言語の例を並べて提示する。

表 4 3言語で音形が大きく異なる語, 句, 接辞の例

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>ca^kL</i>	<i>ʔei^{ʰH}</i>	<i>nē^{LH}</i>	「食べる」
<i>tʰak^Lsik^L</i>	<i>hmar^Lc^hā^{HL}</i>	<i>za^Lsan^{MM}</i>	「唐辛子」
<i>ʔi^{LH}hā^{LH}</i>	<i>ʔe^Lηē^{HL}</i>	<i>ba^ηHL</i>	「何」
<i>ho^ηLL ke^{LHL}</i>	<i>lou^{LL} ka^{LʰH}</i>	<i>ʔo^ηLH pai^{MM}</i>	「来る」
<i>-dūn^{LH}</i>	<i>in^{LL-}</i>	<i>ki^{L-}</i>	(中動態接辞)

3.4 子音に関する対照的な考察

以下, 3言語の子音間に見られる対応関係を示す。

[1] 共鳴音の無声化の欠如

ミゾ語では無声化子音 *hm* [m̥m], *hn* [n̥n], *hŋ* [ŋ̥ŋ], *hl* [l̥l], *ɛ* [ɛ̥ ~ r̥] を音素として設定している一方, ラルテー語では, ティディム・チン語と同様, 共鳴音にあたる子音の無声化は見られない。

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>mū^{LH}</i>	<i>hmū^{LL}</i>	<i>mū^{HL}</i>	「見える」
<i>niam^{LL}</i>	<i>hniam^{LH}</i>	<i>niam^{LH}</i>	「低い」
<i>ŋāk^{LL}</i>	<i>hŋāk^{HL}</i>	<i>ŋāk^{LH}</i>	「待つ」
<i>lā^{LL}</i>	<i>hlā^{LH}</i>	<i>lā^{LH}</i>	「歌」
<i>hiam^{HL}</i>	<i>ɛiam^{ʰH}</i>	<i>hiam^{MM}</i>	「鋭い」

[2] ラルテー語 *s-*: ミゾ語 *c^h-*: ティディム・チン語 *s-*

ミゾ語の子音 *c^h-* は, ラルテー語とティディム・チン語における子音 *s-* と対応する傾向にある。

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>sa^{ʔL}</i>	<i>c^ha^{ʔL}</i>	<i>sa^{ʔL}</i>	「厚い」
<i>sīn^{LH}</i>	<i>c^hīn^{LL}</i>	<i>sīn^{HL}</i>	「ふたをする」
<i>su^aη^{HL}</i>	<i>c^hu^aη^{ʰH}</i>	<i>su^aη^{MM}</i>	「火にかける」
<i>ʔa^Lsu^ηHL</i>	<i>ʔa^Lc^hū^ηʰH</i>	<i>ʔa^Msu^ηMM</i>	「中」
<i>so^{ʔL}sī^{LL}</i>	<i>c^ho^{ʔL}c^hī^{HL}</i>	<i>sī^{LH}</i>	「ごま」
<i>su^ak^{LL}</i>	<i>c^hu^ak^{HL}</i>	<i>(pu^ʰ)su^ak^{LH}</i>	「出る」

これに該当すると考えられるが, ティディム・チン語とは対応関係にない例を以下に示す。

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>siar^{HL}</i>	<i>c^hiar^{HH}</i>	<i>sim^{MM}</i>	「読む」
<i>sim^{LH}lam^{LL}</i>	<i>c^him^{LL}lam^{LH}</i>	<i>k^haŋ^{MM}lam^{LH}</i>	「南側」
<i>sūm^{LL}</i>	<i>c^hūm^{LH}</i>	<i>mei^{MM}</i>	「雲」
<i>sēm^{HL}</i>	<i>c^hēm^{HH}</i>	<i>mūt^{LH}</i>	「吹く」

[3] ラルテー語 *t-* / *t^h-* : ミゾ語 *tl-* / *t^hl-*

ミゾ語には *tl-* または *t^hl-* という子音連続が見られる。これらの子音連続は、ラルテー語において単独の子音 *t-* と *t^h-* で現れる場合が多い。

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>tāŋ^{HL}</i>	<i>tlāŋ^{HH}</i>	<i>mual^{MM}</i>	「山」
<i>taŋ^{LL}vāi^{HL}</i>	<i>tlāŋ^{LL}vāi^{HH}</i>	<i>taŋ^{LH}vāi^{MM}</i>	「青年」
<i>tūŋ^{HL}</i>	<i>tlūŋ^{HH}</i>	<i>ciŋ^{MM}</i>	「満ちる」
<i>tōm^{HL}</i>	<i>tlōm^{HH}</i>	<i>le^{HL}</i>	「負ける」
<i>tū^{LH}</i>	<i>tlū^{LL}</i>	<i>tūk^{MM}</i>	「転ぶ」
<i>t^hā^{LH}</i>	<i>t^hlā^{LL}</i>	<i>k^hā^{HL}</i>	「月」
<i>t^ha^{ɔ̄^L}</i>	<i>t^hla^{ɔ̄^L}</i>	<i>k^ha^{ɔ̄^L}</i>	「放す」
<i>t^hi^{HL}</i>	<i>t^hlī^{HH}</i>	<i>hui^{ɔ̄^L}</i>	「風」
<i>t^hum^{HL}</i>	<i>t^hlum^{HH}</i>	<i>k^hum^{MM}</i>	「甘い」
<i>t^hēr^{LL}</i>	<i>t^hlēr^{LH}</i>	<i>kēk^{LH}</i>	「破く、破れる」

[4] ラルテー語 *-r* : ミゾ語 *-k* : ティディム・チン語 *-k*

ミゾ語における末子音 *-r* は、ティディム・チン語と同様、ラルテー語では末子音 *-k* と対応関係にある例が多く見られる。

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>ʔāk^{HL}sī^{LH}</i>	<i>ʔār^{HH}sī^{LL}</i>	<i>ʔāk^{MM}sī^{HL}</i>	「星」
<i>t^hūk^{LL}</i>	<i>t^hūr^{LH}</i>	<i>t^hūk^{LH}</i>	「酸っぱい」
<i>p^hēk^{HL}</i>	<i>p^hēr^{HH}</i>	<i>p^hēk^{MM}</i>	「マット」
<i>zuak^{HL}</i>	<i>zuar^{HH}</i>	<i>zuak^{MM}</i>	「売る」
<i>vūk^{HL}</i>	<i>vūr^{HH}</i>	<i>vūk^{MM}</i>	「雪」

ただし、上述の対応関係に一致しない例も見られる。また、ミゾ語における末子音 *-r^{ɔ̄}* は、ラルテー語でも末子音 *-r^{ɔ̄}* である。

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>kor^{LL}</i>	<i>kor^{LH}</i>	<i>puan^{LH}</i>	「服」
<i>har^{2L}</i>	<i>har^{2L}</i>	<i>hak^L</i>	「目覚める」

[5] ラルテー語 *ti-* : ミゾ語 *ti-/tli-* : ティディム・チン語 *ci-*

ラルテー語およびミゾ語における頭子音 *ti-* / *tli-* とティディム・チン語における頭子音 *ci-* は以下のような対応関係にあると考えられる。

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>tin^{LL}</i>	<i>tin^{LH}</i>	<i>cin^{LH}</i>	「爪」
<i>tiaŋ^{LL}</i>	<i>tiaŋ^{LH}</i>	<i>ciaŋ^{LH}</i>	「棒」
<i>tiŋ^{HL}</i>	<i>liŋ^{HL}</i>	<i>ciŋ^{MM}</i>	「満ちる」

[6] ラルテー語 *tʰi-* : ミゾ語 *tʰi-* : ティディム・チン語 *si-*

ラルテー語およびミゾ語における頭子音 *tʰ-* とティディム・チン語における頭子音 *s-* は以下のような対応関係にあると考えられる。

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>tʰiŋ^{HL}</i>	<i>tʰiŋ^{HL}</i>	<i>sɪ^{MM}</i>	「死ぬ」
<i>tʰiŋ^{LL}</i>	<i>tʰiŋ^{LH}</i>	<i>sɪ^{LH}</i>	「血」
<i>tʰiŋk^{LL}</i>	<i>tʰiŋ^{LH}</i>	<i>sɪk^{LH}</i>	「鉄」
<i>tʰin^{LH}</i>	<i>tʰin^{LL}</i>	<i>sin^{HL}</i>	「肝臓」
<i>tʰiam^{LL}</i>	<i>tʰiam^{LH}</i>	<i>siam^{LH}</i>	「上手だ」

[7] ラルテー語 *h-* : ミゾ語 *r-* : ティディム・チン語 *g-*

ラルテー語の頭子音 *h-* とミゾ語の頭子音 *r-* は多くの語で対応関係にある。なお、ティディム・チン語では頭子音 *g-* に対応すると考えられる。

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>ham^{HL}</i>	<i>ram^{HL}</i>	<i>gam^{MM}</i>	「国」
<i>hit^L</i>	<i>rit^L</i>	<i>git^L</i>	「重い」
<i>hua^{2L}</i>	<i>rua^{2L}</i>	<i>gua^{2L}</i>	「雨」
<i>hu^{2L}</i>	<i>ru^{2L}</i>	<i>gu^{2L}</i>	「骨」
<i>ha^{2L}</i>	<i>ra^{2L}</i>	<i>ga^{2L}</i>	「実が生る」

以下の例では、ティディム・チン語に対応する語がないが、ラルテー語とミゾ語の対応関係

を見る限り、上記の対応関係に該当する。

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>hi^{HL}hú^{LL}</i>	<i>ri^{HL}rú^{HL}</i>	<i>lu^{MM}sim^{MM}</i>	「心」
<i>hō^{HL}</i>	<i>rō^{HL}</i>	<i>gō^{MM}</i>	「挽く」

但し、上記の対応関係に当てはまらない例も見受けられた。

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>rū^{HL}</i>	<i>rū^{HL}</i>	<i>gū^{MM}</i>	「線を引く」
<i>kou^{HL}</i>	<i>rou^{HL}</i>	<i>keu^{MM}</i>	「乾く」

[8] ラルテー語 *h-* : ミゾ語 *ε-* : ティディム・チン語 *h-*

ラルテー語の頭子音 *h-* とラルテー語の頭子音 *ε-*、ティディム・チン語の頭子音 *h-* が対応関係にある例を以下に示す。

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>hi^{HL}</i>	<i>εi^{HL}</i>	<i>hi^{MM}</i>	「生まれる」
<i>hiam^{HL}</i>	<i>εiam^{HL}</i>	<i>hiam^{MM}</i>	「鋭い」
<i>hi^{HL}</i>	<i>εi^{HL}</i>	<i>hi^{HL}</i>	「教える」
<i>hik^L</i>	<i>εik^L</i>	<i>hik^L</i>	「シラミ」
<i>hei^{LH}</i>	<i>εei^{LL}</i>	<i>hei^{HL}</i>	「斧」

[9] ラルテー語 *k- / k^h-* : ミゾ語 *t- / t^h-*

ミゾ語の頭子音 *t* および *t^h* がラルテー語の頭子音とどのような対応関係があるのかについて、今回の調査で得られたデータからは明確なことを示すことができない。しかし、例の数は少ないものの、ラルテー語の頭子音 *k-* とミゾ語の頭子音 *t-*、およびラルテー語の頭子音 *k^h-* とミゾ語の頭子音 *t^h-* という対応関係が見られた。

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>kap^L</i>	<i>tap^L</i>	<i>kap^L</i>	「泣く」
<i>kut^Lzuy^{LL}ka^{HL}</i>	<i>kut^Lzuy^{LL}tay^{HL}</i>	<i>k^hut^Lmē^{MM}</i>	「指」
<i>ʔin^{LL}kū^{HL}</i>	<i>ʔin^{LL}tū^{HL}</i>	<i>ʔin^{LH}kū^{MM}</i>	「煤」
<i>kū^{LL}</i>	<i>tū^{LH}</i>	<i>kū^{LH}</i>	「必要だ」
<i>k^hay^{HL}</i>	<i>t^hay^{HL}</i>	<i>k^hay^{MM}</i>	「育つ」
<i>k^hui^{HL}</i>	<i>t^hui^{HL}</i>	<i>k^hui^{MM}</i>	「縫う」

なお、完全には対応していないが、以下の例も上記の対応に関係すると考えられる。

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>kʰuŋ^{HL}</i>	<i>ʔhū^{HH}</i>	<i>tū^{MM}</i>	「座る」
<i>ʔa^Lkʰen^{HL}</i>	<i>ʔa^Lʔen^{HH}</i>	<i>pōl^{MM}kʰat^H</i>	「いくつか」

また、ラルテー語の頭子音 *p-* とミゾ語の頭子音 *ʔ-*、およびラルテー語の頭子音 *pʰ-* とミゾ語の頭子音 *ʔʰ-* が対応している例も見受けられた。

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>pan^{LH}</i>	<i>ʔan^{HL}</i>	<i>pan^{HL}</i>	「始める」
<i>pan^{LH}ʔui^{ʔL}</i>	<i>ʔan^Lʔui^{ʔH}</i>	<i>pan^{HL}pi^{ʔL}</i>	「助ける」
<i>pʰā^{LH}</i>	<i>ʔʰā^{LL}</i>	<i>pʰā^{HL}</i>	「良い」

3.5 声調に関する対照的な考察

ラルテー語、ミゾ語、ティディム・チン語の3言語間における声調を対照して観察すると、例外はあるものの、一定の規則を見出すことができる。

[1] ラルテー語<低平調 (^{LL})> : ミゾ語<上昇調 (^{LH})>または<下降調 (^{HL})> :
ティディム・チン語<上昇調 (^{LH})>

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>sam^{LL}</i>	<i>sam^{LH}</i>	<i>sam^{LH}</i>	「髪」
<i>ʔin^{LL}</i>	<i>ʔin^{LH}</i>	<i>ʔin^{LH}</i>	「家」
<i>ʔui^{LL}</i>	<i>ʔui^{LH}</i>	<i>ʔui^{LH}</i>	「犬」
<i>mei^{LL}</i>	<i>mei^{LH}</i>	<i>mei^{LH}</i>	「火」
<i>ʔom^{LL}</i>	<i>ʔom^{LH}</i>	<i>ʔom^{LH}</i>	「ある」
<i>sā^{LL}</i>	<i>sā^{HL}</i>	<i>sā^{LH}</i>	「肉」
<i>mī^{LL}</i>	<i>mī^{HL}</i>	<i>mī^{LH}</i>	「人」
<i>nū^{LL}</i>	<i>nū^{HL}</i>	<i>nū^{LH}</i>	「母」
<i>ʔēk^{LL}</i>	<i>ʔēk^{HL}</i>	<i>ʔēk^{LH}</i>	「大便」
<i>kōŋ^{LL}</i>	<i>kōŋ^{HL}</i>	<i>kōŋ^{LH}</i>	「腰」

[2] ラルテー語<下降調 (HL)> : ミゾ語<高平調 (H)> : ティディム・チン語<中平調 (MM)>

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>tʰāu^{HL}</i>	<i>tʰāu^H</i>	<i>tʰāu^{MM}</i>	「太っている」
<i>pian^{HL}</i>	<i>pian^H</i>	<i>pian^{MM}</i>	「生まれる」
<i>lum^{HL}</i>	<i>lum^H</i>	<i>lum^{MM}</i>	「温かい」
<i>bēl^{HL}</i>	<i>bēl^H</i>	<i>bēl^{MM}</i>	「壺」
<i>hoŋ^{HL}</i>	<i>hoŋ^H</i>	<i>hoŋ^{MM}</i>	「開く」

[3] ラルテー語<下降調 (LH)> : ミゾ語<低平調 (LL)> : ティディム・チン語<下降調 (HL)>

ラルテー語	ミゾ語	ティディム・チン語	意味
<i>kāŋ^{LH}</i>	<i>kāŋ^{LL}</i>	<i>kāŋ^{HL}</i>	「燃える」
<i>kiu^{LH}</i>	<i>kiu^{LL}</i>	<i>kiu^{HL}</i>	「肘」
<i>lui^{LH}</i>	<i>lui^{LL}</i>	<i>lūi^{HL}</i>	「川」
<i>nei^{LH}</i>	<i>nei^{LL}</i>	<i>nei^{HL}</i>	「持つ」
<i>tʰou^{LH}</i>	<i>tʰou^{LL}</i>	<i>tʰou^{HL}</i>	「蠅」

4. まとめ

本論文では、ラルテー語の音韻体系を概観した後、ラルテー語の基礎語彙を、周辺言語であるミゾ語およびティディム・チン語の語彙データと照らし合わせながら、ラルテー語の音形と周辺言語の音形との対応関係を明らかにした。今後、チン語支諸言語の更なるサブグループ化に向け、形態的な特徴と統語的な特徴も考慮に入れながら対照研究を進めていく必要がある。

参考文献

Chhangte, Lalnunthangi (1986) *A PRELIMINARY GRAMMAR OF THE MIZO LANGUAGE (TIBETO-BURMAN)*. MA thesis, The University of Texas at Arlington.

Chhangte, Lalnunthangi (1993) *Mizo Syntax*. Doctoral dissertation, University of Oregon.

服部四郎編 (1957) 『基礎語彙調査票』東京: 東京大学言語学研究室.

大塚行誠 (2013) 「ティディム・チン語における文の下位分類」澤田英夫 (編) 『チベット＝ビルマ系言語の文法現象 2 述語と発話行為のタイプからみた文の下位分類』: 175-201. 東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

SIL International (2015) "Ethnologue: Ralte"<<https://www.ethnologue.com/language/ral>> (アクセス日: 2015/7/21)

The Phonological System of the Ralte Language: A Comparative Study of Ralte, Mizo, and Tiddim Chin

Kosei OTSUKA

Keywords: India, Mizoram, Chin, Mizo, Ralte

Abstract

The Ralte language belongs to the Kuki-Chin subgroup of Tibeto-Burman languages and is spoken mainly in Mizoram in Northeast India. Specifically, the language to be discussed here is spoken in the Bawngkawn area of the Aizawl district. This paper aims to provide an overview of the phonological system of the modern Ralte language, and it attempts a lexical comparison with its two neighboring Kuki-Chin languages, Mizo (or Lushai) and Tiddim Chin.

(おおつか・こうせい 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)